

スーパー連携大学院

大学向け説明

1. 履修イメージ
2. 多様な利用形態
3. 学生の立場からの利点
4. 大学の立場からの利点
5. 大学が対応すべき課題
6. 教員が対応すべき課題
7. まとめと期待

1

1. 「スーパー連携大学院」プログラムの履修イメージ

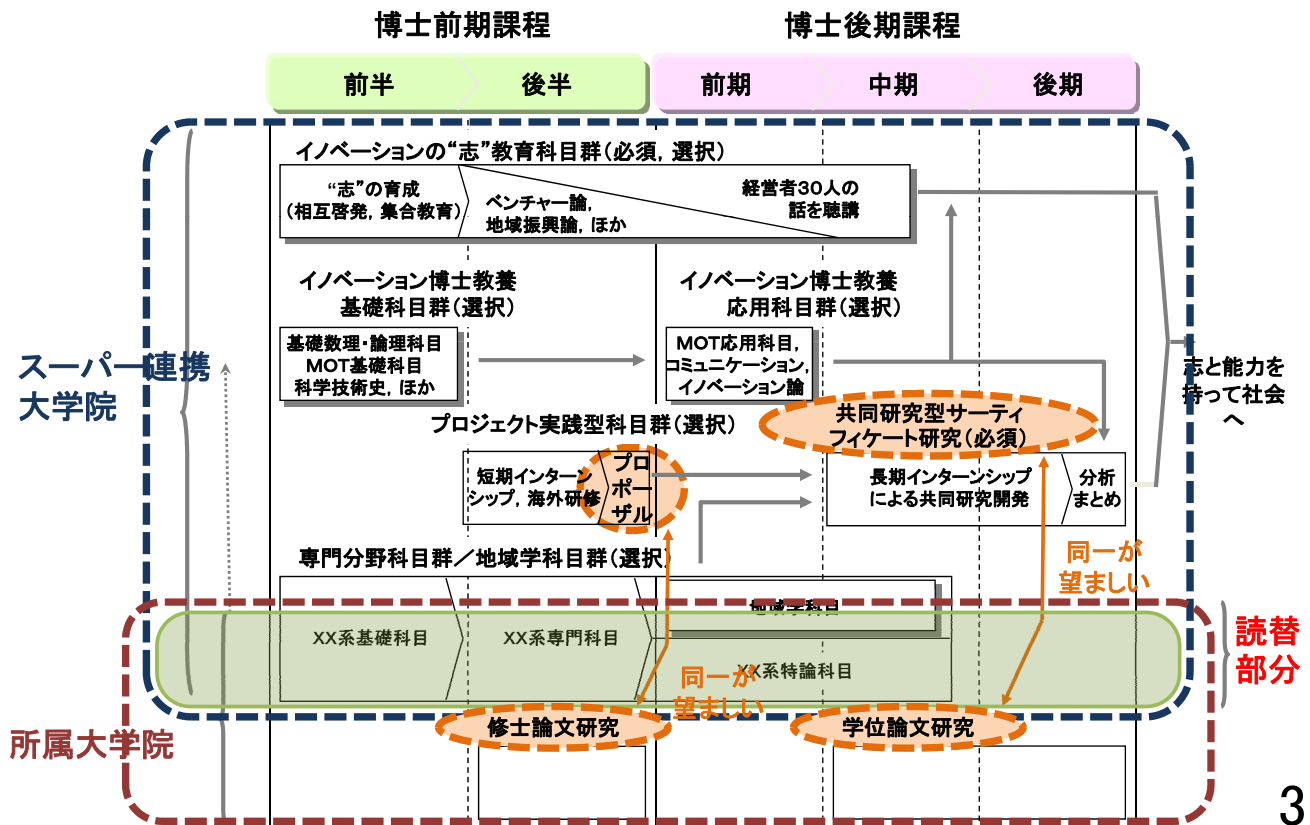
- 学生は、各大学の専攻に属する(入試は各大学で実施)
入試は既存専攻で行い、スーパー連携大学院ではプログラム受講生の選抜を行う
- 学生は、各大学の専攻に属しつつ、この「スーパー連携大学院プログラム」に応募する
 - ・プログラム履修の希望を出す
 - ・スーパー連携大学院からは、受講希望学生として見える
 - ・応募者を選抜して、受講生を決める
- 学生は、各大学の専攻を修了する必要がある
- 「スーパー連携大学院プログラム」が定める履修やサーティフィケート研究をした学生に修了証書を出す
学位審査は既存専攻で行い、スーパー連携大学院ではサーティフィケート(履修証明)授与の審査を行う



つまり、受講、教育、研究、サーティフィケート授与、起業支援等まで含んだ独立の大学院と見えるが、「実体は産学官の連携プログラムとして存在する」大学院である

2

既存の教育との相互活用＋スーパー連携大学院の質保証



2. 「スーパー連携大学院」プログラムの多様な利用形態

- (A) 学内にスーパー連携大学院推進室を設けて、希望する教員・学生が個々に参加する
- (B) 学内に専攻共通の公式のプログラムを設定し、推進する
- (C) 新たな専攻, 研究科を設置する
- (D) 複数の大学が協力し新たな連合大学院, 共同大学院等を設置する

3. 学生の立場からの利点

【自分の望む人物像に向けたカリキュラムで学べる】

- ・一人ひとりの学生に応じたカリキュラム(テーラーメイド)
- ・多様なキャリアパスに対応したカリキュラム
- ・副専攻が自由自在, 新規(化+機械+知財など)の人材に
- ・自大学だけでは難しい多様な講義を受けられる
- ・多様な人材と交流できる(視野拡大)

【就職】

- ・就職候補先が明確に提示されている
- ・産学共同研究プロジェクトにより, 企業とのマッチングが行える
- ・長期のインターンシップにより, 自身の適性が理解できる
- ・起業の支援を受けられる

【産学共同研究プロジェクトへ参加】

- ・実社会の課題, 問題意識, 意義を体験する
- ・企業人等との人的交流, コミュニケーションから広い社会を認識する

【その他】

- ・一旦社会人になった後, スーパー連携大学院に戻ってサーティフィケート取得
- ・国際性(海外インターンシップ, 留学)
- ・奨学金の可能性

4. 大学の立場からの利点

【研究】

- ・新たな専門領域の教育, 研究への素早い対応が可能
- ・全国的な産業界(企業), 行政との横の連携構築
- ・隣接分野, 異なる関連研究分野の研究者との連携
- ・博士課程進学者増大による研究加速

【教育の充実】

- ・博士後期課程のカリキュラムの豊富化
- ・産学官共同研究ベースのサーティフィケート研究システムにより, 大学の研究の場で大学院生にOJTを実施(インターンシップ含む)
- ・多様な学生・研究者との交流(他流試合)

【学生の就職】

- ・博士課程進学者の増大
- ・地域において求められるリーダー像に合致した人材の育成

連携により初めて可能となる

5. 大学が対応すべき課題

<前提>

- 大学間連携協定の締結(内容:理念共有と単位互換)
- スーパー連携大学院産学官コンソーシアムへの加入

<必須>

- 選定された自大学の講義をスーパー連携大学院科目として単位互換により提供(e-learning)
- 自学生がスーパー連携大学院科目を受講可能とする
- 自学生・教員へスーパー連携大学院をPRする
- スーパー連携大学院産学官コンソーシアムの運営委員会等に加わる

<オプション>

- スーパー連携大学院に参画する教員への支援
スーパー連携大学院の共同研究へ参加する教員への支援
スーパー連携大学院学生への科目提供教員への支援

理念を共有する大学に集まって頂きたい

7

6. 教員が対応すべき課題

<前提>

- スーパー連携大学院の理念に共感
イノベーション博士人材育成、共同研究ベースサーティフィケート研究など

<必須>

- スーパー連携大学院プログラム受講希望学生の受け入れ・指導
スーパー連携大学院支援研究室・教員として公開
→イノベーション博士取得希望者が研究室訪問
→学生を受け入れ、指導を行う
＜通常の指導＋スーパー連携大学院履修への配慮＞

<オプション>

- スーパー連携大学院への講義の提供
＜スーパー連携大学院講義の質保証に合わせる必要がある＞
- スーパー連携大学院の運営への協力(委員)
- 連携大学・企業と進めるスーパー連携大学院の共同研究への参加

理念を共有する教員に集まって頂きたい

8

7. まとめと期待

- スーパー連携大学院の実現に協力して欲しい
 - ・野心的で新しい取り組み
- スーパー連携大学院を前向きに活用して欲しい
 - ・各大学, 地方の特徴を生かし, 本取り組みを前向きに活用して欲しい
- 参加を決めるのは大学, しかし, 作り上げていくのは参加教員

<今後の期待>

- 第一ステップとして「産学官の連携プログラム」での実現を目指す
理由＝法律・大学事情・経済状況に縛られず自由な制度設計が可能
- 各大学の既存専攻・研究科への波及
- 将来的には, 「産学官連携プログラム」が法制化され,
正式の大学院として認められ,
独自学位として「イノベーション博士」を授与可能になり,
さらに, 各大学の学位とのジョイントデグリー授与を目指す

<理念を共有する大学・教員に参加頂きたい>